

# 事務事業評価表

## 1. 基本事項

作成日 令和05年06月14日(水)

事務事業		指揮活動支援事務		担当課	深谷消防課	担当係	深谷消防署	管理番号	54211
総合計画	大項目	4	安心とやすらぎを感じられるまち	事業区分	<input checked="" type="checkbox"/> 自治事務 <input type="checkbox"/> 法定受託事務				
	中項目	1	備えができて安全・安心なまちづくり	根拠法令 個別計画等	・消防法・消防組織法 ・消防力の整備指針 ・深谷市消防本部警防規程				
	小項目	2	消防・救急体制の充実						
	主要プロジェクト								
事業概要		平成17年6月に当時の消防力の基準が改正、全国の消防署に指揮隊を配備するよう指針が示された。平成20年度に警防課へ指揮隊1隊を配置し、平成24年度からは、深谷消防署及び花園消防署の2署2隊体制により、災害活動時における安全管理および二次災害発生防止を図るとともに、円滑、効果的な部隊運用を推進する。							
目的 ※何のために		災害活動時の安全管理の確保と、円滑かつ効果的な活動を推進し、住民の安全、安心を守る。							
対象 ※誰・何を対象に		住民の生命、身体及び財産。							
手段 ※どのように		訓練及び研修会を実施する。							
成果 ※何を求めるか		災害活動時の職員受傷事故ゼロを目指す。							
執行体制		<input checked="" type="checkbox"/> 職員 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> 市民ボランティア <input type="checkbox"/> NP0等 <input type="checkbox"/> その他( )							
事務事業を構成する 予算事業		区分	款	項	目	細事業名		前年度決算額(円)	
本事業の 主な業務		・指揮隊災害出場統計の作成					・		
		・指揮支援活動業務					・		
		・訓練及び災害活動時の安全管理					・		
		・災害活動技術の調査研究					・		
		・指揮資器材の維持管理業務					・		
		・各種訓練の立案、調整、実施に関する業務					・		

## 2. 事業費(投入コスト)

単位: 円

区分		令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	
年度別計画								
事業費	予算（現額）	0	0	0	0			
	決算額	0	0	0	0			
	財源内訳	国支出金	0	0	0	0		
		県支出金	0	0	0	0		
		地方債	0	0	0	0		
		他特定財源	0	0	0	0		
		一般財源	0	0	0	0		
人件費	従事職員数（人）	0.10	0.10	0.30	0.30			
	人件費相当試算※	776,192	786,956	2,603,992	2,603,992			
総事業費試算		776,192	786,956	2,603,992	2,603,992			

※ 人件費相当額試算は、従事職員数に平均人件費を用いて試算したものです。

3. 評価指標

区分	指標名		目標値	単位	令和 4年度	令和 5年度	令和 6年度	令和 7年度	令和 8年度	令和 9年度
			実績値							
	目標値の算定根拠/実績値の出所									
実績値の算出式										
活動指標 1	指揮隊出場件数（暦年）		目標値	件						
			実績値		149.00					
	目標値の算定根拠/実績値の出所			指揮隊の災害出場件数であり、目標値の設定に値しない。/出場件数						
	実績値の算出式									
活動指標 2	訓練・研修回数		目標値	回	22.00					
			実績値		22.00					
	目標値の算定根拠/実績値の出所			年間訓練計画に基づく目標値とする。（実施回数を詳細に計上。） / 実施回数						
	実績値の算出式									
活動指標 3	資器材点検実施率		目標値	%	100.00					
			実績値		100.00					
	目標値の算定根拠/実績値の出所			100%の資器材点検を目標とする。 / 実施日／365日×100						
	実績値の算出式									
成果指標 1	資器材常時使用可能率		目標値	%	100.00					
			実績値		100.00					
	目標値の算定根拠/実績値の出所			車載されている全資器材の常時使用可能率。 / 使用可能数／全資器材×100						
	実績値の算出式									
成果指標 2	二次災害事故防止率		目標値	%	100.00					
			実績値		100.00					
	目標値の算定根拠/実績値の出所			指揮隊が出場する災害活動での職員の二次災害事故防止率。 / 無受傷事故件数／全件数×100						
	実績値の算出式									
			目標値							
			実績値							
	目標値の算定根拠/実績値の出所									
	実績値の算出式									

4. 観点別評価

観点別評価は、指標達成の有無の他、その達成率も勘案して総合的に評価します。  
目標値の設定がないものについても、進捗状況等を踏まえA～Cの三段階にて評価します。  
事業達成度評価は、意図した活動により事業目的に合う成果がでているかを評価します。  
（評価基準）（A:達成している B:おおむね達成している C:達成していない）

（1）事業達成度評価

区分	評価の観点	評価	評価理由・指標数値の推移
活動	・活動実績は、見込みに沿い、かつ投入資源に見合っているか。	A	指揮活動審査会を始めた年間の訓練計画に掲げられた訓練は全て実施できた。また、車両及び車載資器材を適正に維持管理することで、通年使用することができた。
成果	・意図した成果が上がっているか。 ・指標未達成の場合は、その原因を分析できているか。	A	指揮隊が出場する災害活動において、職員の受傷事故を防止することができた。また、車載資器材を常時使用できる状態に保つことができた。
			評価者 指揮係長 荻塚教弘・松本秀行

（2）事業効率性評価

事業効率性評価は、執行体制や手段など効率的に事務事業を執行しているかを評価します。  
（評価基準）（A:効率的である B:高める余地あり C:効率的でない）

区分	評価の観点	評価	評価理由
効率性	・ICTの活用や業務改善が充分か。 ※検証必須 ・コスト面など効率的に執行できているか。 ・民間委託や他事業との統合・連携が可能か。	A	各種災害現場において、積極的に情報収集を行うことで、活動の効率化を図り、安全管理の徹底を図ることが出来た。 また、近年複雑多様化する災害活動において、活動の長期化や異常気象により熱中症等の発生リスクが高いことから、安全管理体制を見直す必要がある。
			評価者 指揮係長 荻塚教弘・松本秀行

5. 前年度改善改革プラン達成状況

令和3年度の評価を受けて 設定した改善・改革案	各種災害において、指揮隊による直接的な活動指示を行うことで、さらなる安全確保と円滑な部隊運用を図る。署警防計画を現状の消防体制に即したものに改正し、有効に活用する。また、新型コロナウイルス感染症の不安が大きい中、現場活動時に職員が感染者、感染疑い者と接することが懸念されることから、災害現場においても万全な感染対策を行うとともに、熱中症等職員の安全管理に努める。
達成状況及び その効果	効率的な部隊運用と安全管理の徹底を目標に、直接的な指揮活動の訓練や、先着小隊長の活動要領の訓練を行うことで連携した部隊運用の強化や更なる安全管理の徹底を図ることが出来た。

6. 所属長評価（今後の方向性）

事務事業	指揮活動支援事務	担当課	深谷消防課	担当係	深谷消防署	管理番号	54211
<div><div><div><input type="checkbox"/> ①拡充, 重点化(コスト投入)</div><div><input checked="" type="checkbox"/> ②現状のまま継続</div><div><input type="checkbox"/> ③見直して継続</div><div><input type="checkbox"/> ④目的達成による終了</div><div><input type="checkbox"/> ⑤廃止を検討</div></div><div><div><input type="checkbox"/> 委託化等の検討</div><div><input type="checkbox"/> 成果向上のための改善</div><div><input type="checkbox"/> 効率化のための改善</div><div><input type="checkbox"/> 事業規模の縮小</div><div><input type="checkbox"/> 他の事務事業と統合</div></div></div>		<div>評価の内容説明</div> <div>複雑多様化する災害に対して、早期に情報を収集し、効率的な活動指示を行い、連携の取れた部隊運用を行うことが被害の軽減に繋がる。また、安全管理の徹底を図り、二次災害の防止を防ぐことも重要である。</div>					
上記を実施するための具体的な取組内容は？		評価者	消防課長	鴻野	匡志		

7. 改善改革プラン・今後の課題

令和5年度に実施する 改善・改革案 （事業目的・各指標の達成に必要な改善、業務の効率化を図るための改善）	各種災害活動において、円滑な部隊運用と更なる安全管理体制を構築するために、出場部隊との連携を強化するとともに、署警防計画を現状の出場体制に改正し、各部隊が共通認識をもって活動する。 また、新型コロナウイルスが5類に変更になったが引き続き感染対策を行うとともに、熱中症等の安全管理に努める。
令和6年度以降に取り組む 改善・改革案・今後の課題 （事業目的・各指標の達成に必要な改善、業務の効率化を図るための改善）	指揮隊による直接的な活動指示を行っているが、現場到着するまで最先着隊が災害現場の状況把握や後着の部隊運用指示を行わなくてはならないため各小隊長の指揮能力の向上と指揮隊との連携強化を図る必要がある。 また、複雑多様化する災害現場において、長期化による隊員の負傷等が懸念されることから消防本部全体の安全管理体制の構築が必要となる。

8. 評価指標グラフ

区分	活動指標 1	指標名	指揮隊出場件数（暦年）
			
区分	活動指標 2	指標名	訓練・研修回数
			